

着任にあたり

福島県相双農林事務所長 鈴木 貞夫



この4月に着任いたしました鈴木貞夫です。

相双地方は、初めての勤務ですが、よろしく願いいたします。

最近、我が国の食料自給率が40%を割り込んだことや輸入食品の安全性などに端を発して、農業や農産物に関するテレビ、新聞等の特集が目立っています。日本農業の現

状は、約50年間で半分になってしまった米の消費量や生産過剰等による米価の下落、また輸入農産物との価格競争などによる農産物価格の低迷が続いていますし、農村集落では、過疎化、高齢化による農業従事者の減少や耕作放棄地の拡大など、相変わらず、八方塞がりの状況に見えます。

しかしながら、今、世界では、地球温暖化による異常気象が原因と考えられている干ばつ被害やバイオ燃料作物への作付転換などで、米や小麦、大豆などの生産が大幅に減少し、各国で農産物の輸出規制が行われ、輸入国では食糧難による暴動が起きるなど、世界各地で食糧危機が叫ばれ、先進国の中で最大の食料輸入国である我が国においてもお金があっても買えない、買い負ける、状況が来ているのです。

着任してわずか1ヶ月ですが、相双地方は、米の計画生産や有機、特別栽培、また、温暖な気候を利用した「グリーンベルト形成プロジェクト」を推進するなど、県内でも農業が大いに気を吐いている地域です。先日、それぞれの分野で活躍されている農林家とお会いする機会があり、「危機」を「好機」と捉えているとの力強いお話を伺い、新たな農業経営が着実に展開していると感じました。

是非、これからも、地産地消の推進や産地間競争に勝ち抜くことで、食糧危機を吹き飛ばせる安定的な農業経営を、地域の皆さんと一緒に考え、様々な人達と連携しながら、県なりの支援ができればと思っています。

トピックス

ふるさと林道「鈴宇線」の開通

新地町の鈴宇峠周辺は、既設の林道があったものの幅員が狭く砂利道で車両の走行性が悪いことなどから森林整備に支障をきたして



開通式テープカット風景

いました。また、新地町と宮城県丸森町は古くから交流が盛んであり、両地域を結ぶ高規格道路の整備が強く望まれていました。

こうしたことから、2車線構造の林道「鈴宇線」を本県及び宮城県の両方向から整備を行ってきましたが、本年3月に宮城県側の工事が完了したことに伴い全線が開通しました。4月5日には、両町の関係者等が多数出席の中、盛大に開通式が行われました。

林道「鈴宇線」の全線開通により、周辺の森林整備の推進と、新地、丸森両町の県境を越えた交流の活発化など、地域振興に大きな効果が期待されています。

(森林林業部)

新規就農者はアヒルの子？

「アヒル農法米」の取り組み開始(広野町)

広野町では3戸の生産者が、アヒルを水田に放して雑草防除を行う「アヒル農法米」の生産に取り組み始めました。以前からアヒルを利用した水田除草を行ってきた生産者の話では、「日中は水田に出勤して除草を行い、夕方は自宅の小屋に自分で帰ってくる。」とアヒルは勤勉で愛嬌があり、人に慣れやすいことが特徴です。消費者の食の安全安心に対する意識が高まっている中、環境と共生する農業の取り組みである「アヒル農法米」は需要が見込めるのではないかと、生産の安定ばかりでなく、アヒル肉の利用や販売PRなどについて、広野町と新たな生産者を加えて地域ぐるみで検討を重ねています。

今後、双葉地方産米の魅力アップの一方策として、



消費者や実需者の認知を得ながら販路拡大や販売促進などの売れる米づくりの活動に発展することが期待されます。

(双葉農業普及所)

直播作業無事に終了!!

(南相馬市原町区高地区)

南相馬市原町区高地区の乾田直播栽培の播種作業が4月2日から始まり、若干のトラブル、雨天による作業延期がありました。4月16日に計画どおり約30haの播種を終了しました。

高地区の乾田直播栽培は、農閑期である冬期間に代かきをおこない土壌の均平化を図り、その後田面を乾燥させて乾田状態で4月上旬に乾籾を播種します。そのため春期の作業分散性に優れ、乾田状態で播種するため作業効率が高く、規模の大きい稲作経営に適している栽培法です。また、V溝に播種するため播種深が深く(5cm程度)、従来の湛水直播のデメリットである鳥による害、倒伏といった課題が解決されています。

本年は、種籾の温湯消毒等を取り入れ農薬の使用成分を半減し、発酵鶏糞の利用により化学窒素肥料成分を慣行栽培の半分に減らした特別栽培にも取り組んでいます。(農業振興普及部)



V溝播種機による作業風景

遊休農地の解消と優良農地の確保のために!!

～遊休農地解消普及活動事業～

遊休農地解消普及活動事業とは、遊休農地の解消と優良農地の確保を図ることを目的に農業者等の行う遊休農地の解消等の取り組みに対して、農林事務所が技術的な側面から支援する事業です。

ここでは、飯館村に設置した鳥獣害防止用簡易ネット柵の事例をご紹介します。

鳥獣害防止用簡易ネット柵による実証事例【飯館村】

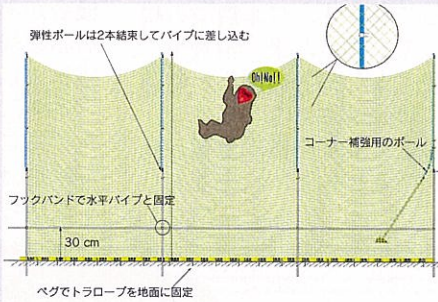
近年、全国的に鳥獣害の被害が増加しており、相双地方においても猿や猪等による被害が多発しています。そのため、栽培する作物が制限され、耕作が放棄される事例も発生しています。

そのような事態への対策として、県の農業総合センターで改良された鳥獣害防止用簡易ネット柵を飯館村に設置しました。このネット柵



鳥獣害防止用簡易ネット柵の設置状況

は比較的安価で設置作業も簡単に行える特徴があります。農業総合センターや飯館村等の関係機関と協力しながら、鳥獣害を受けやすいスイートコーンやカボチャ等を栽培する村内3カ所で鳥獣害から守れることを実証して行きます。有効性が実証された後は、他市町村で被害を受けている地域への普及も期待されます。導入の際には条件はありますが、国等の補助も受けられますので個人負担も少なく済み



鳥獣害防止用簡易ネット柵(詳細図)

ます。(農業振興普及部)

うつくしま農林水産ファンクラブ会員募集中!!

- ★福島県の農林水産業を応援して下さる方
- ★福島県の農林水産物が大好きな方
- ★郷土料理や食文化に興味のある方
- ★食育や地産地消の活動に参加したい方

あなたも

「うつくしま農林水産ファンクラブ」
会員になって一緒に活動しよう!!

会員特典

入会費無料で食と農に関するいろんな情報やイベント開催のお知らせがもらえるよ♪

- ①「うつくしま農林水産ファンクラブ通信」、「食」や「農」に関するイベントの案内、農林水産業や食育、食品に関するお知らせ
 - ②「ファンクラブ交流会」、「食や農林水産業の体験学習」など食や農林水産業に関するイベントへの参加
- ★入会された方にはもちろん「うつくしま農林水産ファンクラブ」の会員証がもらえるよ♪

お知らせ

福島県の農林水産業に関する メールマガジンの発行のお知らせ!

福島県農林水産部では、福島県の農林水産業や旬の農林水産物、イベントなどの情報を迅速に、分かりやすく皆様にお届けするために、メールマガジン「ふくしま食・農通信」を発行しております。ぜひご覧ください。

内容

- ◆食と農に関する話題の紹介
- ◆地域の農林水産物や加工品、直売所など地産地消に関する情報
- ◆イベントなどの県からのお知らせ
- ◆農林水産業の現状や用語解説などの知識のコーナー

登録方法

メールマガジンの配信を希望される方は、下記のアドレスにアクセスし、登録フォームに電子メールアドレスを入力してください。

メールマガジン登録用ホームページ
<http://www.pref.fukushima.jp/norinsuisan/mailmag/>

※携帯電話等には対応していません。

※登録は無料です。

詳しくは、相双農林事務所企画部へお尋ね下さい。

ご意見・ご感想・PRしたい情報などをお寄せ下さい。

福島県相双農林事務所 企画部

〒975-0031 福島県南相馬市原町区錦町一丁目30番地 TEL:0244-26-1153 FAX:0244-26-1181

ホームページアドレス <http://www.aff.pref.fukushima.jp/sousou/>



ふくしま食と農の絆づくり運動